

**医学教育分野別評価
の受審は医学教育の
改善を促すのか
—アンケート調査の分析
結果から—**

**2022年9月10日14:25-16:25
日本教育社会学会第74回大会
田中正弘(筑波大学)**



本発表の目的

- ・ 本発表の目的は、「国際基準に沿った医学教育分野別評価の受審は医学教育の改善を促すのか」という問いへの回答を試みることである。
 - この問いを明らかにするために、質問紙調査を実施した。



目次

- はじめに
- 調査方法
- 調査結果
- 分析
- まとめ





はじめに

はじめに

- 国際基準に沿ったため、「日本医学教育評価機構」(JACME)の評価基準には、日本の医学部にとって馴染みの薄い領域(領域3「学生の評価」と領域7「プログラム評価」)が含まれている。
 - この二つの領域で低い評価を受ける医学部が続出した。よって、これらの医学部は、二つの領域への対応を余儀なくされた。
 - そこで、先記した問いを立てた。





調査方法

調査方法

- 質問紙調査「医学教育分野別評価の影響に関する調査」を郵送法で行った。
- 調査対象校：国内の医学部全82校
- 調査時期：2021年11月～12月
- 回答：44校（回収率53.7%）
 - 主な回答は、医学部医学科長にお願いした。
 - ただし、一部の質問項目（領域3や領域7への対応）は、その領域の担当者が代わりに答えても可とした。





調查結果

調査結果 (Q1「医学部の基本情報」)

- 回答した44校のうち、JACMEの認定を受けた機関は、30校 (68.2%) であった。
- JACME評価員 (外部評価者) を経験した教員がいる機関は、42校であった。
 - 卒業後にアメリカで医師免許を取得する人数を把握していない機関は、21校 (47.7%) におよんだ。
 - なお、日本の医学部を卒業してからアメリカで医師となるもの (毎年約80人、卒業生の約1%) は多くない。



調査結果 (Q2「評価受審に向けた組織体制の基本情報」)

- **自己点検評価のための常設委員会の設置**
 - JACMEの評価が始まる2017年より前に部局内に設置していた機関は、22校 (50%)
 - 2017年以降に設置した機関は、18校 (40.9%)
 - 常設組織がない機関は、4校 (9.1%)であった。
- **医学教育センターを設置した機関は、42校 (95.5%)**
- **IR組織を設置した機関は、41校 (93.2%)**
- **よって、大多数の医学部で、評価受審に向けた組織体制は整っていると思われる。**



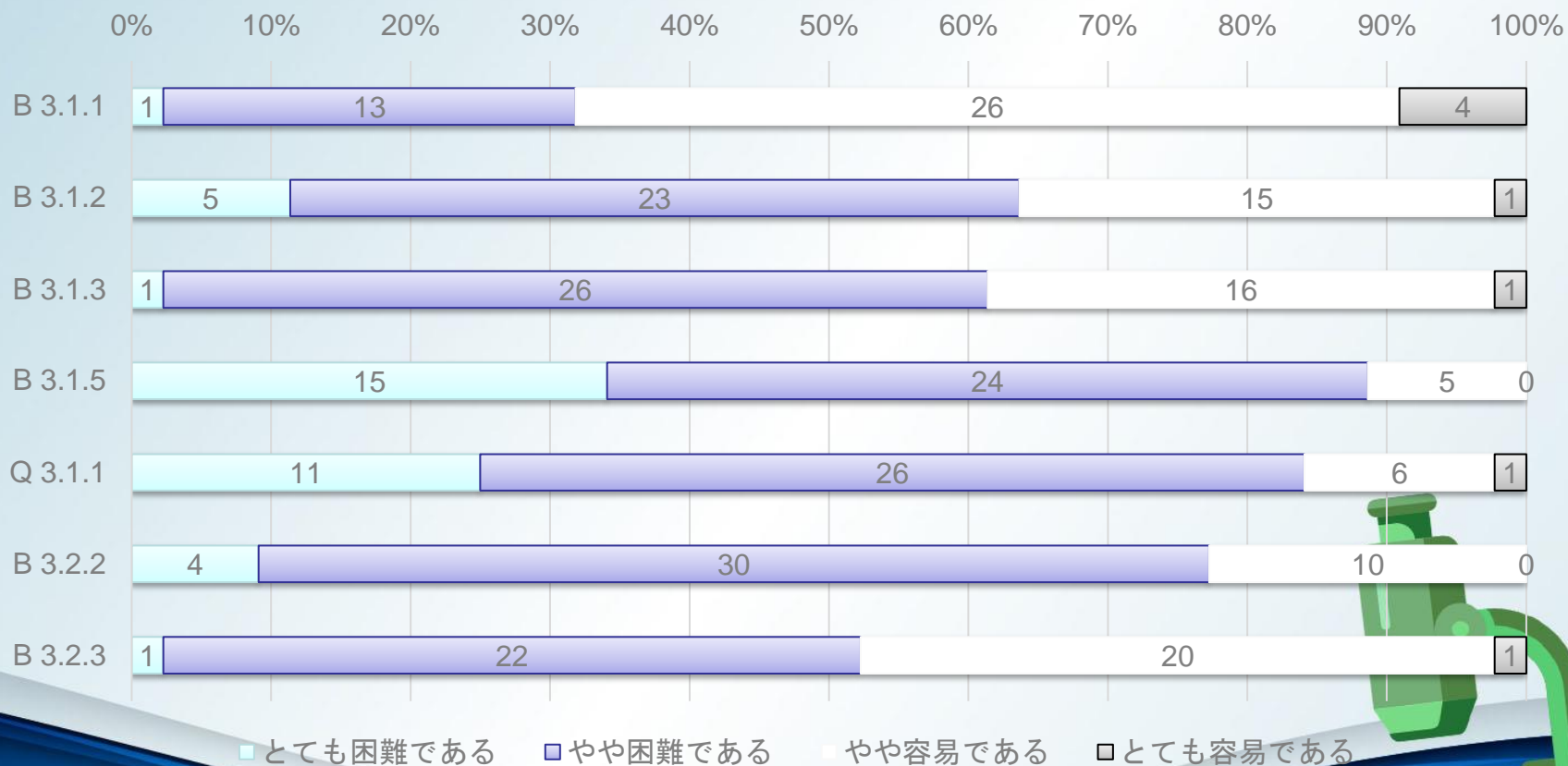
調査結果 (Q3「領域3『学生の評価』の課題」1/2)

- 領域3「学生の評価」の対応の難しさを、4件法(1. とても困難である～4. とても容易である)で尋ねた。
- 質問は全部で7つあり、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33で提示された基準を基に作成した。
 - 「学生の評価について、原理、方法、実施を定め開示する」(B 3.1.1)
 - 「知識、技能、態度を含む評価を確実に実施する」(B 3.1.2)
 - 「様々な評価方法を、その有用性に合わせて活用する」(B 3.1.3)
 - 「評価結果を外部の専門家に精密に吟味してもらう」(B 3.1.5)
 - 「評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示する」(Q 3.1.1)
 - 「目標とする学修成果を学生が達成したことを保証する」(B 3.2.2)
 - 「学生の学修を促進する評価であること」(B 3.2.3)



調査結果 (Q3「領域3『学生の評価』の課題」2/2)

表 1 : 学生の評価



■ とても困難である ■ やや困難である ■ やや容易である ■ とても容易である

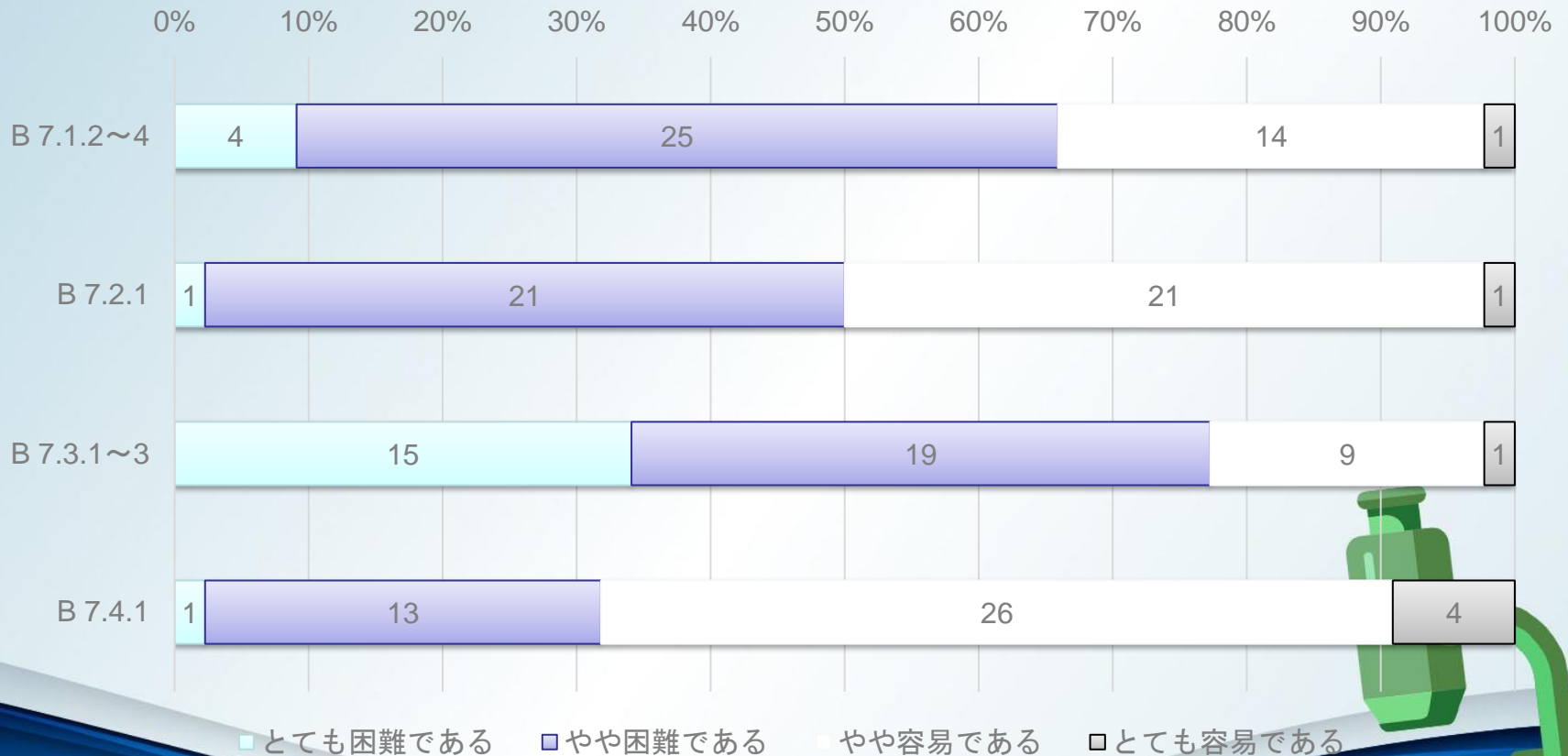
調査結果 (Q4「領域7『プログラム評価』の課題」1/2)

- 領域7「プログラム評価」の対応の難しさを、4件法(1. とても困難である～4. とても容易である)で尋ねた。
- 質問は全部で4つあり、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33で提示された基準を基に作成した。
 - 「教育プログラムの評価の仕組みを確立する」(B 7.1.2～4)
 - 「教員と学生からのフィードバックを分析し、対応する」(B 7.2.1)
 - 「学生と卒業生の実績を分析する」(B 7.3.1～3)
 - 「教育プログラムの評価に教育の構成者を含める」(B 7.4.1)。



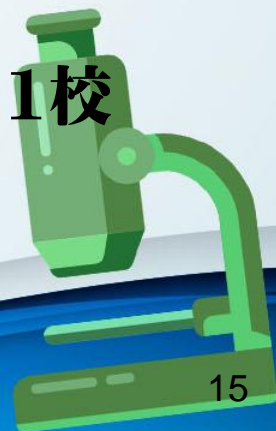
調査結果 (Q4「領域7『プログラム評価』の課題」2/2)

表 2 : プログラム評価



調査結果 (Q5「医学教育分野別評価、および望ましい医学教育や貴校の現状について」1/8)

- 分野別評価の現状や課題などについて、医学科長の個人的な意見を、4件法(1. 全くそう思わない～4. とてもそう思う)で尋ねた。
 - この調査の結果をいくつか抜粋して提示したい。
- 第1に、Q5-01「JACMEが行う評価の信頼性・妥当性は高い」という質問に対して、肯定的回答(41校)が大多数を占めた。
 - 「ある程度そう思う」30校、「とてもそう思う」11校



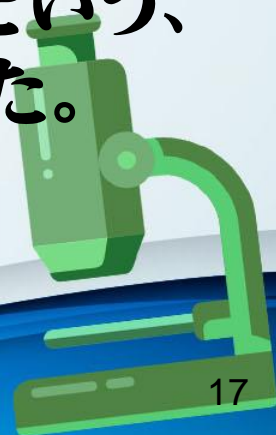
調査結果 (Q5「医学教育分野別評価、および望ましい医学教育や貴校の現状について」2/8)

- 第2に、Q5-02「JACMEの評価制度は医学教育の改善に役立つ」という質問でも、ほぼ全て、肯定的回答(42校)であった。
 - 「ある程度そう思う」24校、「とてもそう思う」18校
- 第3に、Q5-04「JACMEの評価を受審することは負担よりも利益が大きい」という質問では、否定的回答(13校)も散見された。
 - 「全くそう思わない」1校、「あまりそう思わない」12校



調査結果 (Q5「医学教育分野別評価、および望ましい医学教育や貴校の現状について」3/8)

- 第4に、JACMEの評価で前提とされている、Q5-06「アウトカム基盤型教育への移行は望ましい」という問は、肯定的回答(40校)で占められた。
 - 「ある程度そう思う」31校、「とてもそう思う」9校
- 第5に、JACMEの評価で重視されている「形成的評価の活用」(Q5-10)や「能動的学修の実施」(Q5-11)では、十分にできていないという、否定的回答(33校、26校)が多数を占めた。



調査結果（「自由記述欄」4/8）

- **評価の負担に関するもの**
 - 「分野別評価に加えて、国立大学法人評価や機関別認証評価への対応も求められており、事務作業が膨大になっている。また、それぞれの評価において、分析や評価の観点や基準に差違があることも、対応の実務を増やす要因となっている。外部評価の統合、項目の整理を望む」（A27：認定済）。
 - 同様の意見は、A4（未認定）、A5（認定済）、A34（認定済）からも出されている。



調査結果（「自由記述欄」5/8）

- **国際基準に沿うことに関するもの**
 - 「基準の内容を吟味せず盲目的に体制の異なる米国の制度に合わせようとするのは無意味である」（A8：未認定）。
 - 「そもそも英語の誤訳が多い中で、その日本語に従って評価すること自体に無理がある。特に、『should』を『べきである』と訳している時点で問題がある」（A34：認定済）。
 - 同様の意見は、A7（認定済）、A14（認定済）からも出されている。



調査結果（「自由記述欄」6/8）

- 今後への期待などに関するもの
 - 「JACMEが行う評価の信頼性（再現性）と妥当性の検証はJACMEが責任を持って行うべきと考える。全医学部の一巡目の分野別評価が完了した後の報告が待たれる」（A25：認定済）。
 - 同様の意見は、A5（認定済）、A8（未認定）、A34（認定済）からも出されている。
 - 教育改善より前に「国家試験を変え」（A8：未認定）るべきだという意見も出された。
 - 評価による教育内容の「画一化」（A16：認定済、A22：認定済）への懸念も示されている。



調査結果（「自由記述欄」7/8）

- **教育改善に関する（肯定的な）もの（1/2）**
 - 「教職員が一丸となって、医学教育分野別評価の受審に臨んだことで、受審前と比べて、医学教育に対する関心が格段に向上しました」（A32：認定済）。
 - 「JACMEの評価により、自学の医学教育を点検し、改善点を確認することができた。医学教育全体の改善に向けての原動力として期待している」（A25：認定済）。
 - 「医学教育改革に非常に有益であった。機関別認証評価との連携をさらに促進すべきである」（A18：認定済）。



調査結果（「自由記述欄」8/8）

- **教育改善に関する（肯定的な）もの（2/2）**
 - 「是正すべき箇所を明確にご指導いただき、感謝しております。医学教育がよりよく進化していく過程において医学教育分野別評価の影響は大きいと考えます」（A30：認定済）。
 - 「現在受審準備中であるが、その過程で自大学の医学部教育の現状や改善策について意見交換等を行うことで、教職員の医学教育への関心が高まることが期待できる」（A19：未認定）。
 - 同様の意見は、A7（認定済）、A14（認定済）、A17（未認定）、A39（認定済）、A41（認定済）からも出されている。



分析

分析

- 本発表のRQ「国際基準に沿った医学教育分野別評価の受審は医学教育の改善を促す」の答えは、「促す」になりそうである。
 - ただし、JACMEの認定校でも、領域3や領域7の対応に未だに苦慮している現状（調査結果）に鑑みて、JACMEの評価は、教育改善を促すというよりは、（現段階では）関係者の意識改善につながった、というのがより正確な理解といえるかもしれない。





まとめ

まとめ

- **外部評価機関に問題点を指摘されたので、教育内容・方法の改善に着手した、という「受動的」な教育改善よりも、評価受審に向けて自らの教育内容・方法を点検したところ、問題点が明らかになったのでその改善に着手した、という「能動的」な教育改善の方がより望ましい質保証のあり方だと思われる。**
 - **その「能動的」な教育改善の必要条件の一つが関係者の意識改善であるのならば、JACMEの評価は示唆的である。**





ご清聴ありがとうございました。